

熱中度高める3つの要素

これまで「五感」の中でも特に「安心感」と「連帯感」が職場で長く働き続けるために重要であることを説明した。今回から、この2つをベースにした上で、さらにいい仕事をし続けるために必要な「熱中感」「成長感」「重要感」について話を進めていく。今回は「熱中感」についてである。「熱中感」とは、会社の存在意義や与えられた仕事の意義などを納得し、一定の自由裁量の中で、自分の仕事に文字通り夢中になって取り組んでいる状態を言う。後に続く「成長感」も「重要感」も、一つの仕事にとことん熱中して取り組んでこそ得られるものであり、この「熱中感」があることが大変重要になってくる。

また、「熱中感」を醸成するためには①意義の納得②自由度③夢を持つ—の3つの要素が必要になる。

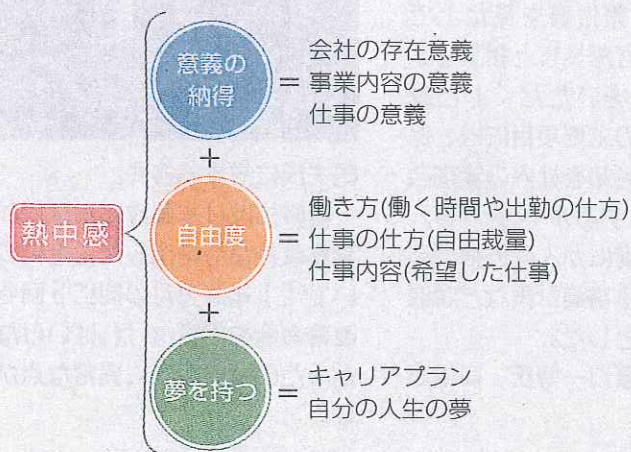
まず意義の納得に関して、人

は意義をきちんと理解した時に、そのことに心から打ち込むことができる。目の前の仕事の意義の理解だけでは不十分で、自社の存在意義に深い共感を持っていること、自社が取り組んでいる事業内容の意義を納得していること、そしてその中で、自分に分担されている仕事の意義、意味を理解して初めて心底仕事に打ち込むことができる。

しかし、仕事に没頭していると知らず知らずのうちに、誰しも視野が狭くなっていくものである。目の前の仕事の意味はともかく、その事業の意義や会社の存在意義といった大きな視野の必要なものは見失いがちになる。「分かっているはずだ」という言葉は禁句にして、経営者やマネジャーが、ことあるごとに意義を伝えていかななくてはならない。

自由度については、社員一人

実践! 五感経営



一人にまったく自由度がなく、はしの上げ下げまで指示され管理されてしまうような仕事のあり方では、「熱中感」を持って仕事をすることで、3日ももたないだろう。働き方(働く時間や出勤の仕方)、仕事の仕方(自由裁量)、仕事内容(希望した仕事)をすることができる)

いまの・せいいち 日本リクルートセンター(現リクルート)、リクルートコスモスを経て1998年組織人事コンサルティング会社「マングローブ」設立。著書に『マングローブが教えてくれた働き方』(P-VineBOOKs)。51歳。岩手県出身。

組織人事コンサルタント 今野誠一

とは、社員一人一人の夢のことで、現在勤めている会社の中で、どのようにステップアップして最終的にどうなりたいのかというキャリアプランと、最終的な自分の人生の夢(現在勤めている会社にずっといるとはかぎらない)を意味している。企業に人生を預けるのではなく、自分なりの将来の夢を持って共有しているほうが、結局のところ仕事への熱中度は高まるのである。

などの自由度がある程度の度合いで担保されている必要がある。常に一人一人の望む仕事に配置しては、経営が成り立たないが、すぐに希望はかなわずとも、常に本人が意思を持ちそれを会社が理解している状態が望ましい。

最後の夢を持つことの「夢」